

ソリューションカンファランス ワークフローコントロール

「コロナ禍の教育」 座長集約

総合南東北病院 太田 運良
中条中央病院 関川 高志

COVID19の世界的大流行の状況下で研修会、学会の開催・参加方法は様変わりし、現在はWebまたはハイブリット開催が主流である、そのため昨年に比べて中止になる学会・研究会が減少し、多くは同様の方法で再開される事となった。

このような移り変わりの結果 遠隔地で行われる会に本人が赴かなくてもWebで容易に参加できるようになり、知識の広域化が行われるようになったのは良いが、Webでは聞きにくい内容や演者らと直接交流ができないのには窮屈を感じてしまう。

今回は様々な制限の中で、我々がどのように教育に参加したか、またその問題点などを(一財)総合南東北病院 鍵谷勝氏、つがる総合病院 船水憲一氏に話していただいた。

以下に注目点を挙げる

- ・開催方式は変わったが、参加するメンバーが増えることはほとんどなかった。

開催方式を多様化したからといって、新規参加者の増加にはつながらない。

- ・Webで参加する場合を勤務として認めるかどうか、参加確認をどうするか

参加承認の整備がほとんどの場合でされておらず、今後の改良に期待される、また各施設における勤務取扱いについてもバラバラであり、明確な基準がないのが現状である。

- ・質問ができない、直接演者に聞くことができない

Web開催の普及によって、システムが改善されることを望む

以上

現在、開催されている診療放射線技師法改正による告示講習の座学については、全員がWeb研修で行わなくてはならない。そのことがWebによる講習会等の参加に今まで関心を抱かなかった技師や、Web視聴は難しいと思っていた技師の心のハードルを下げる作用をなし、まずはWebから学会・研究会に新規に参加する技師が増える事を期待したい。